



JASA グローバルフォーラム 2014 開催報告

11月に開催されたET2014(Embedded Technology 2014)の併催セミナーとして、「JASA グローバルフォーラム2014」が実施されました。JASA国際委員会が毎年主催しており、海外ビジネス展開に役立つ情報を提供するセミナーです。今回のテーマは「成功するプロセスを探る～成功例から学ぶ～」とし、講演者には成功体験が中心になるようなスピーチをお願いしました。

以下、講演内容について、印象に残ったお話しのポイントをご紹介します。

～開会あいさつ～

JASA国際委員会 委員長 廣田 豊

今回は基調講演として新興アジア諸国の現状のお話から始まり、その後2部構成として、1つはまだ、IT関連では情報が少ないスリランカという国に焦点を当てた講演、もう1つは現在中国に次いでオフショア開発進出の多いベトナムに焦点を当てた講演を行います。それぞれの国の実情に詳しい専門の方々にご講演頂きますので、その生の声の中に皆様方の何らかの参考になる事があれば願う次第です。

～基調講演～

「新興アジアにおけるグローバルビジネス戦略」

タイ政府国家経済社会開発委員会
政策顧問 松島 大輔 氏



中国インドと共に6億人の人口を持つASEAN諸国は、急速に市場規模を拡大しており、2050年には世界のGDPの半分はこれらアジアで占められると予測されています。そしてこの10年「日本で考え、アジアで作り、欧米で売る時代」から、「アジアで考え、アジアで作り、アジアで売る時代」へ変革しつつあります。こうした流れの中、日本としてはプロダクトアウト型ビジネスから、新興アジアの顧客ニーズを起点としたビジネスを形成して行かなければなりません。

～スリランカアワー～

「スリランカのビジネス環境」

日本貿易振興機構(ジェトロ)
前コロンボ事務所長 崎重 雅英 氏
スリランカは内戦後安定した政治・社会情勢を背景に、急速に



廣田 豊 委員長



司会:浅川詩保子

経済発展しております。これからは製造業においては人材の質の高さ(生産性、手先の器用さなど)、非製造業では経済成長のポテンシャルの高さを評価しての投資が有望視されます。今後の有望ビジネスとしては、地理的なメリットを生かしたインド、ASEAN、中国、さらに日本、欧州、アフリカを視野に入れた部品等の輸出、そして国内富裕層や観光客を対象とした市場開拓があげられます。

「スリランカビジネス成功モデル」

株式会社メタテクノ
常務取締役 大和 靖博 氏

14年前からスリランカに海外子会社を設立し、スリランカ人と共に仕事をしています。日本で日本人と共に開発するオンサイトモデルと、スリランカで開発するオフショアモデルがありますが、どちらもこつこつ実績を積み重ねて成功しています。スリランカ人は英語能力、教育レベル、親日性、勤勉さ、人間性等々、大変優れており、「現在隠れたオフショアに適した国」と思われます。但し将来は経済発展と共にビジネスモデルを変え、日本で製品企画し、スリランカ子会社で製品開発し、インドや南アジア、そして中東、アフリカ、欧州に輸出販売する姿を描いています。

「スリランカのソフト開発再委託 成功事例」

株式会社メタテクノ デバイスエンジニアリング事業部
応用技術開発部 部長 高橋 明 氏

オフショア開発トラブルの主要原因はコミュニケーションミスにあると思います。その対策として、スリランカ社員に日本を知ってもらう事が何より大切です。まずは日本に来て日本の業務を経験する、次に日本語の習得と日本の商習慣を習得する、そして日本を知ったスリランカ社員が帰国し、オフショア開発に携わる。この仕組みによりコミュニケーションの課題が根本的に解決できたのです。

「信頼されるオフショア開発パートナーへの道程」

株式会社メタテクノランカ
取締役 ガヤーン ダハナーヤカ 氏

オフショア開発拠点として、開発の各段階での課題と解決への取組みについて、3つの事例を具体的に説明します。またオフショア成功のための課題として、コミュニケーション、見積もり、テスト



崎重 雅英 氏



大和 靖博 氏



松永 正彦 氏



栗花落 慧樹 氏



高橋 明 氏



ガヤン ダハナーヤカ 氏

環境、インフラなどが挙げられます。そして成功への取組みとしては、標準化、オンサイト開発経験、日本側技術者の出張、研修実施、振返りの実施、お客様の声をプロセス改善に活用、など重要視します。

「スリランカアワー パネルディスカッション」

モデレータ JASA国際委員 佐藤 博昭

スリランカアワーで講演いただいた3人の方に再度ご登壇願ひ、会場から集めた質問票をもとにモデレータから代表質問し、講演者に答えて頂く形式で進められました。インドとスリランカはどう違うか？育てた技術者の引き抜き対策は？オフショア開発の課題は？等々、様々な質問がありました。質問内容によっては講演者の間で異なるお答えもあり、それはそれで生のお考えを聞く事ができ、有意義でした。

～ベトナムアワー～

「アジアでJapan Quality を求める！」

Lifetime Technologies CO.LTD.

CEO 松永 正彦 氏

ベトナム人は日本人と違う特性があります。性急な時間感覚（1年先の10万円より3日後の100円が大切）、仕事より家族が大切、記憶力＝頭が良いと考えがち、効率的な作業に興味ない、同じ会社で長続きしない、仕事より皆で遊ぶ方が大好き、等々。ベトナムでオフショア開発を成功するためには、先ず第1ステップとしてベトナム人目線で考える事、次のステップはベトナム人に合った職

場環境を作る事、第3のステップとしてベトナム人のマインド作り（躰け）が必要です。

「後悔しないベトナムIT人材の使い方・育て方」

ルビナソフトウェアジャパン株式会社

アカウントマネージャ 栗花落 慧樹 氏

ベトナムは日本からの求人ブームになっており、供給が需要に追いつかず、必ずしも目的に合う人材を採用できてない状況です。またベトナム人の特性上、常時上達上昇を求める「天才病」が蔓延しており、短期に辞めてしまう傾向があります。このような中ルビナソフトウェアでは、一流大学、IT科卒業、成績優秀、日本語可、など世間が求める求人要件にこだわらず、二流大学可、IT科にこだわらず、成績不問、日本語不問、など条件を緩め採用対象を広げ、インターンシップ・プログラムを実施する中で、仕事のできる人材を選定しています。

「ベトナムアワー パネルディスカッション」

モデレータ JASA国際委員長 廣田 豊

スリランカアワーと同様に、講演いただいた方にパネラーからの質問形式で、お答え頂いた。ベトナム人マネージャーにどこまで権限を与えているか？ベトナム人離職率？離職しないための家族囲い込み方策？等々の質問に対し、詳しい貴重なお話を頂きました。

● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

この「JASA グローバルフォーラム」は今回で5回目の実施となりました。企画検討する国際委員会としては毎年趣向を凝らし努力しておりますが、特に今回は対象国を2カ国に絞り、それぞれ国ごとの講演の終わりにパネルディスカッション形式で、会場からの質問・疑問にも答える事ができ、講演者のお話の内容に生々しい内容が加わって視聴者の理解を深めたと思われます。また来年は新しい試み工夫を加え、ET併設セミナーの定番として、より多くの視聴者に役立つ内容になるよう、努力して参ります。



「スリランカアワー」のパネルセッション



「ベトナムアワー」のパネルセッション